

前回に引き続き, LaTeX の演習を行います。今回は訳が分からなかった人が多かったと思いますが, 私が問題にしたいのは『その後どうしたか』です。自分でテキストを読んだりして理解しようと務めた人は見込みがあります。一方, 分からなかったのに何もしていない人。その調子で4年間を過ごすと, 何も実力が付かないまま競争社会に放り込まれます。これからの社会では, 京大卒なんて肩書きに何の力もないですから, 自分で自分の実力を付けることに専念して下さい。

今回は, LaTeX で利用するファイル (***.tex) に記述するコマンドの説明を行った上で, 実際にコマンドと文章を書いてもらいます。

[作業手順]

- 1) メールに添付したファイル (sample2.tex, girls.eps) をホームディレクトリに保存する。
- 2) 本演習で利用するファイルを移動する。

cd	ホームディレクトリへ移動する
mkdir latex2	ディレクトリを作成する
cd latex2	作成したディレクトリへ移動する
pwd	カレントディレクトリを確認する
mv ../sample2.tex .	ファイルをコピーする
mv ../girls.eps .	ファイルをコピーする
ls	ファイルの存在を確認する

- 3) "Mule" を起動して, "sample2.tex" を開く。

mule sample2.tex &	ファイルを Mule で開く
--------------------	----------------

- 4) ¥author{} 欄に自分の氏名と学籍番号を書く。

- 5) 次頁以降を参考にして, ファイルを完成させる。

- 6) dvi ファイルを作成する。2回実行すること。

```
platex sample2.tex
platex sample2.tex
```

- 7) dvi ファイルを表示する。

```
xdvi sample2.dvi
```

- 8) dvi ファイルを印刷する。

dvips sample2.dvi	PS ファイルに変換する
lpr sample2.ps	PS ファイルを印刷する

- 9) 自分の氏名と学籍番号とを確認して, 提出する。

< 注意事項 >

コマンドは全て半角文字にすること。

コマンドの後ろに, 必要な空白を入れること。

提出する用紙は1枚のみとすること。

```

%documentclass[twocolumn]{jarticle}
%usepackage{graphics}
%setlength{\topmargin}{-2cm}
%setlength{\oddsidemargin}{0cm}
%setlength{\evensidemargin}{0cm}
%setlength{\textwidth}{16.0cm}
%setlength{\textheight}{25.0cm}
%
%title{¥LaTeX の演習}
%author{加納学 (学籍番号 : 0123456789 ) }
%
%begin{document}
%maketitle

```

```

%section{はじめに}

```

```

%
```

今回の演習の目標は、箇条書き、表の作成、図の取り込みができるようになることです。また、2段組にも挑戦します。この演習ができれば、¥LaTeX で簡単な論文を書けるようになります。

```

%section{数式}

```

```

%
```

はじめの式を与えます。

```

%begin{eqnarray}

```

$$y(x)=ax+b$$

```

%label{eqn:y}

```

```

%end{eqnarray}

```

式(¥ref{eqn:y})を次式に代入します。

```

%begin{eqnarray}

```

$$z \ \&\& \ \int_0^{\infty} y(x) \ dx \ \&\&$$

$$\ \&\& \ \int_0^{\infty} (ax+b) \ dx$$

```

%label{eqn:z}

```

```

%end{eqnarray}

```

このように、式番号は自動的に付けられ、その番号を参照することもできます。もちろん、文章中に $\int_0^{\infty} y(x)dx$ と複雑な数式を書くこともできます。

分数やギリシャ文字も簡単に使うことができます。

```

%begin{eqnarray}

```

$$\phi \ \&\& \ \sum_{i=1}^N \alpha_i \ e^{\beta_i} \ \&\&$$

$$\tan\theta \ \&\& \ \frac{\sin\theta}{\cos\theta}$$

```

%end{eqnarray}

```

```

%section{箇条書き}

```

```

%
番号付きの箇条書きを書いてみましょう。
¥begin{enumerate}
¥item これが1番目
  ¥begin{enumerate}
  ¥item これが1番目の1番目
  ¥item これが1番目の2番目
  ¥end{enumerate}
¥item これが2番目
¥item これが3番目
¥end{enumerate}
%

```

```

¥section{図の取り込み}

```

```

%
ここでは、図を取り込みます。¥LaTeX で利用する画像形式は EPS です。図¥ref{fig:girls}は元の画像
サイズの 80¥%の大きさです。図番号が自動的に付けられます。

```

```

%
¥begin{figure}[htb]
  ¥begin{center}
  ¥scalebox{0.8}{
  ¥includegraphics{girls.eps}
  }
  ¥end{center}
  ¥caption{ルノワールの絵画}
  ¥label{fig:girls}
¥end{figure}
%

```

```

¥section{感想}

```

```

%
ここに感想を書いて下さい。
ここに感想を書いて下さい。
ここに感想を書いて下さい。
ここに感想を書いて下さい。
ここに感想を書いて下さい。

```

```

¥end{document}

```